

2025年度 第1回 豊岡市子ども・子育て会議 議事要旨

日時	2025年8月27日（水） 13時30分～15時35分	
場所	豊岡市役所 7階 第3委員会室	
出席者（委員）	水落会長、岩本副会長、井口委員、一ノ尾委員、今本委員、岩崎委員、川島委員、鈴木委員、田中委員、戸田委員、永田委員、西垣委員、森本委員、吉岡委員、和田委員	
（事務局）	小野部長、若森課長、丸谷参事、福田主幹、山崎主幹、谷垣係長、吉本部次長、鳥居所長、道下課長補佐、中村主幹、高橋主幹、向原課長、三輪参事、細田課長補佐、樋口主幹、磯係長、竹内主任、TSC松原	
欠席者（委員）	渋谷委員、水田委員	
会議次第	<div>1 開会</div> <div>2 会長あいさつ</div> <div>3 委員の任命（辞令交付）</div> <div>4 委員自己紹介</div> <div>5 副会長選出</div> <div>6 豊岡市子ども・子育て会議の概要</div> <div>7 議事</div> <div><div>(1) 報告</div><div><div>ア 児童数について</div><div>イ 幼稚園・保育所・認定こども園の利用状況について</div><div>ウ 放課後児童クラブの利用状況等について</div><div>エ 地域子ども・子育て支援事業の取組状況について</div><div>オ 出生数について</div><div>カ こども計画の推進について（子育て情報提供の充実）</div></div><div>(2) 意見交換</div></div> <div>8 その他</div> <div><div>(1) 次回の会議日程</div><div>(2) その他</div></div> <div>9 閉会</div>	
配布資料	<div><div>資料1</div><div>資料2－1</div><div>資料2－2</div><div>資料2－3</div><div>資料3</div><div>資料4－1</div><div>資料4－2</div><div>資料5</div><div>資料6</div></div>	<div>豊岡市子ども・子育て会議委員名簿</div> <div>豊岡市子ども・子育て会議の概要</div> <div>豊岡市子ども・子育て会議条例</div> <div>豊岡市子ども・子育て会議傍聴要綱</div> <div>児童数の推移</div> <div>幼稚園の入園状況</div> <div>保育所・認定こども園の入園状況</div> <div>放課後児童クラブの利用状況等</div> <div>地域子ども・子育て支援事業の取組状況</div>

資料7

2025年の出生数（実績）

資料8

こども計画の推進について（子育て情報提供の充実）

別冊資料

豊岡市こども計画

〃

〈概要版〉

〃

〈こども版〉

議事要旨

1	開会	開会の宣言（事務局）
2	会長あいさつ	会長あいさつ
3	委員の任命	辞令交付（机上配布）
4	委員自己紹介	
5	副会長選出	委員の互選により、岩本委員を選出
6	会議の説明	子ども・子育て会議等の概要について説明
7	議事	
	(1) 報告	
	事務局	ア 児童数について 資料3
	会長	事務局からの説明に対し質問等はあるか。次に移る。
	事務局	イ 幼稚園・保育所・認定こども園の利用状況等について 資料4-1～2
	会長	事務局からの説明に対し質問等はあるか。次に移る。
	事務局	ウ 放課後児童クラブの利用状況等について 資料5
	会長	事務局からの説明に対し質問等はあるか。次に移る。
	事務局	エ 地域子ども・子育て支援事業の取組状況について 資料6
	会長	ここまでの取組みの内容によって若干の増減はあるものの、こどもは減少傾向にある。 さらにこどもたちの教育、保育、具体的に子育て世代に何をすべきか、早期に検討しなければならない内容なのでは。 また、分析とは具体的に現状と課題をとらえて、次年度につなげるために行うもの。内容によっては現状のみが記載されている箇所もある。 いろいろ考える中で記載する箇所が少ないということからだとは思いますが、可能な限り文章を丁寧に記述してもらえると、委員の方々も理解が促進されると思うので検討を。
	委員	資料17ページの子育て支援のファミリーサポートセンター事業の分析のところ、減少しているが、先ほど説明にあったように、放課後児童クラブに行くからファミリーサポートセンターを利用する必要がないという考え方もできると思う。
	事務局	その要因もあると考えている。
	委員	13番の放課後こども教室の分析があり、開設に至らなかった原因として支援員等の高齢化はわかるが、参加者不足というのは結果であって、なぜ参加者が減ったのかという理由を聞きたい。
	事務局	放課後こども教室については、放課後児童クラブを利用される方もある中で、そちらに利用があって放課後こども教室に利用がないということ。
	会長	他にあるか。次に移る。

事務局

オ 出生数について 資料 7

次第にはないが追加で報告させていただく。

昨年度の子ども・子育て会議で、オムツ用のごみ袋が無料配布できないかというご意見をいただいた。ごみ袋について状況は変わってないが、会議の中で、形のあるもの、目に見えるものでちょっとした心遣いがうれしい、というご意見があった。

こども未来課で何かできないか検討し、こんにちは赤ちゃん事業で民生委員が赤ちゃんの家に訪問する際に、人と人をつなぐ機会として、活動に役立ててもらえないかという意味で、コンパクトなもので、日持ちがして、もらった方の好みを問わない実用的なものという視点で、今年度テスト的に「おむつがにおわない袋」を用意した。

「ご出産おめでとうございます。何かあったらこども未来課に相談してね」のシールを貼って、民生委員さんを通じてお配りしている。

会長

今のように検討し、実施することがすごく大事。大きな変化をつくるのはなかなか難しい中で、ささやかな変化の積み重ねが大きな波をつくる、そう考えると、一つ一つご意見を参考に、市役所でもいろいろ取り組まれない。

事務局からの説明に対し質問等はあるか。

委員

出生数の推移について、これがどんどん減っていくことは明らかだが、豊岡市としては、はっきりこれから出生数を増やそうという思いなのか。それとも、こどもの数を増やすには、子育てのために移住してくる方を増やすのか、どちらに重きを置くのか。

先日、北海道の安平町の教育長の話聞く機会があり、印象的だったのが、教育で町を立て直すんだ、という町長の発言を受けて、教育長がいろんな改革を行っている。そしたら、出生数は全く変わらず、むしろ減少している。ただ、仕事もなく、住む場所もないけど、子育てをここでしたいんだっていう移住者が生まれる数よりもたくさん来てもらえるようになったと。

そういう考え方も大事だなということで、今さら産めよ増やせよという時代ではないので、今いるこどもたちのために何かをするのはもちろん大前提として、これから生む方、現に子育てをされている方がこの豊岡市に来てもらえるようにしていくことも大事だと考えるが、市の方向性はどうなのかお聞きしたい。

事務局

これから人口が急に増えるっていうことは正直ないと考える。

市は地方創生総合戦略を策定しており、その中で、移住者という特徴的な指標をもって、他所から豊岡市に来る方を増やすという取組みをしている。今回、地方創生総合戦略自体が見直しの時期になっており、そこでも議論されることと考える。

昨年度策定したこども計画についても、まずは、今いる方のウェルビーイングを目指すという視点でつくっているの、当然たくさんこどもが生まれ、そのこどもたちがすくすく育っていくことが一番大事ではあるが、地方創生と少

し関連が深い部分と考えている。

会長

かなり相関があるのではないかと思います。国内でも移住者が増えるところはその先進的な教育・保育っていうのをしっかりと担保している。こどもをその環境に置くとすごくいいと謳われているところにどんどん集まってきていることが分かっているので、ぜひ、豊岡市の中でもこのような先進的な教育・保育に取り組み、先進国の中でどういう取り組みをしているのかという視察とか、独自のカリキュラムをご検討し実施することによってこどもたちが増えていく、もしくはこどもたちの質が上がったから移住者が増える、ということまでご検討いただけたら、というのが委員のご意見。考えていただければ。

委員

豊岡市には全国の自治体にないものが二つある。

一つはコウノトリ共生課、もう一つはジェンダーギャップ対策課、これは市長（当時）の肝煎りでできた課で、人口が減少する中、こどもを産むのは女性なので、女性の移住者・Uターン者が増えないと、このまま、人口が減り続けてしまう。それは思わしくない事態だと考えて、市職員にアンケートを取った時、庶務のような仕事、窓口業務といった仕事しか経験していない、という女性職員が非常に多かった。

自分は採用するときに差別していないつもりなのに、どうしてそうになってしまうのか、職員自身が自分はそんなに偉くなくていいと思っているとか、ヒアリングをされて、これを変えていかないと女性の人口が増えないということに気が付かれ、そういった課をつくられた。

私は日本ジェンダー学会の会員をしていて、2022年だったか、福知山公立大学で全国大会をした際、福知山市に限らず広く一般市民の方にも、今のような話を市長（当時）に基調講演してもらい、すごく反響があった。

今度9月に「人口減少社会のジェンダー政策」という本を出す、市職員にも一章、市長（当時）にも一章書いていただき、私もフィンランドやノルウェー、デンマークの事例を書いているが、これから、どこの市町村もこどもが減り、人口が減っているので、取り合いになってはいけない部分もあると思う。

そして何より大事なのは、豊岡市が調査した結果、男性は結構帰ってきているが、女性は仕事がないので帰ってこれない。帰りたいけど帰れない、堅苦しい思いをしなきゃいけないから帰りたくない、というのがあって、それをなくす取り組みを市役所としてやろうというメッセージだった。

どこまでうまくいっているかは今後の課題かもしれないが、そんな課を作っているところは全国探してもないから、全国の研究者と一緒に、そこに着目して出版した。

決してその豊岡市全体として、人口が増えなくていいと考えているとは思えないが、問題があるとすれば、単にジェンダーギャップ対策課が頑張るだけじゃなくて、教育の部署、保育所、子育て支援の部署と横の連携ができないと市役所全体として、回っていかないとあると思う。どこの市も人口が増えていけば、どうしても縦割りになってしまっていて、横軸が通らない。

今後もうちょっと横軸を通すため、配置転換したり、人事交流をして、市全体の取組みとしてより前に出ていくといいのかなと思う。

市民の皆さんも意外と知らなかったりするので、市役所の方からもそういう話が出てこなかったと思う。

会長 そういったご意見は本当に貴重だと思う。

絵に描いた餅ではなく、しっかりと今聞いたご意見をもとに、市として具体的に次年度何をする。そこを考えながらこの1年を過ごさないと、また5年後に300人減りました、200人減りましたって話があって、否定的な話だけで終わってしまうと思う。そのときにマイルストーンのように、ここから何をすべきかというのを考えて、是非動いていただきたい。

委員 宮津市の保育のアドバイザーをしていて、昨日、すごくショックを受けた。京都府北部は福知山市をはじめ、京都府で第2位の合計特殊出生率を誇っている。私が福知山に赴任した2020年当時は宮津市の合計特殊出生率は1.87くらいで、かなり高いほうだと思うが、今は1.5まで下がった。

宮津市も保育園でおむつを配るサービスをしたりして、すごく子育て支援に力を入れている。

だが、一番児童数が多い宮津小学校に今年入学する児童が38人、ずっと継続的に関わっていて出生数は知っていたが、これだけ努力しているのに、そんなに急激に減るのかとすごいショックだった。

例えば宮津市の総合戦略の10年で、子ども子育て事業計画は5年でやっているが、10年のスパンでなく、5年とか、3年とかで考えていかないと、これから急激に減少する、ということと言われた。

豊岡市は結構こどもが多い方で、今これだけこどもがいるから大丈夫ではなく、来年はここをもっと変えていかなければ、というのを、ジェンダーギャップ対策課と相談しながら具体的に進めていかないと、これは豊岡市に限らずどこの市町村も、どんどんどんどんこどもが減っていく、こどもが減ればそのあと、大人になってからの人口が減る。ということは税収なり、市の財政そのものが保てなくなるという状況に陥ってしまう。

会長 豊岡市ではある意味で少人数というところも一つの強みにしていかなきゃいけないのではと思う。少人数だからこそ可能となるその教育・保育のエビデンスを出していくことはすごく大事で、これは国内外問わず少人数の保育・教育の価値というのはあまりエビデンスとしては示されていないはずなので、ぜひ豊岡市として、少人数の保育・教育の価値っていうのを、この5年ぐらいでしっかりと出しながら、教育保育の施設の内容とかも含めて改善することが、きっと子どもたちが増えることにつながると思う。

委員 当園でよく一時保育をお受けするのは、都会に出ていて、こちらに出産で帰ってこられる方。上のこどもがいて、病院に行くときに、どうしてもそのほかに見る者がいないからという例が割とある。

そのときに、先ほど会長から話があったように、当園のような小規模のどこ

ろではそのこどもが入ったときに周囲に慣れるのも早い。

4月に入園したときに2週間ぐらい、慣らし保育みたいな形にされるところもあるが、当園では1週間、あるいは10日ぐらいで大体慣れてしまう。一時保育を受け入れるととても喜ばれて帰られ、そういうところが強みかなと思う。

IターンやUターン、いろんなことがあるが、お産で帰ってこられて、豊岡市っていいとこだな、と思われて、子育てのいろんな状況を体験されて、もう1回帰ってこられるようなきっかけになったら、と思いながら、一時保育をしている。一時保育も減ってきてはいるが大事にしないといけないと思う。ご支援よろしくをお願いしたい。

会長 やはり実情を理解した上で、具現化した取組みっていうのはすごく大事ななと思うし、また将来の子育て世帯増加の種をまくことが、これからより求められることなのではないか。その辺りも含めて、今年1年の中でしっかりと議論していけたらと考える。

では、次に移る。

事務局 **カ こども計画の推進について（子育て情報提供の充実）** **資料8**
T S C松原

会長 事務局からの説明に対し意見はあるか。

委員 市広報の見直しについて。これを待っていた。

義理の母、実母ともに私が言う信じてくれないが、広報に「今の子育てはこうだよ」と書いてあることで分かってもらえる。子育てもいろいろ変わってきていることを伝えられて、すごくうれしく思ってた。

また、大人がくわえた同じ箸でこどもに食べさせてはダメなことについて、なぜダメなのかを、二次元コードを読み込んだら詳しく書いてあったりとか、各月に掲載した記事を集めて冊子として配れるように、まとめていただけたら。

(2)意見交換

委員 「TOYOOKA iD0」について、どのように探せばよいか聞きたい。

T S C松原 「TOYOOKA iD0」で検索する必要がある、いま市役所のホームページに載せている。

委員 市の公式LINEでも、子育てのいろいろな情報について調べやすくなっているので、「遊ぶ・過ごす」からiD0に紐づけしたらよいと思う。

会長 さらにここからブラッシュアップをするということを踏まえることと、市の公式LINEとも協働しながらアプリをつくってもらえたら。

委員 同じく25ページの市広報の紙面の見直しで、上の保健事業のところの表、ちょっと見にくい。2色刷りなので難しいと思うが、例えば4か月健診の4か月健診・日程・その対象のこどもたちを太枠で囲うとか、その罫線をちょっと変えるだけでもっと見やすくなるのでは。

4か月健診は青、7か月健診は白と色をちょっと変えてみるだけで見やすくなるのでは。

会長 委員	<p>デザイン性のことも意見を頂きながら、見直していただけたらと思う。</p> <p>区長会では1番の問題はやはり少子化だと感じる。先日も集まっていると出る言葉が「こどもがおらん」。</p> <p>私は3月で学校勤めを辞めたが、勤めているときに思ったことがある。やはり困っているこどもの後ろには困っている大人がいるということ。何に困っているかということ子育てに困っていると感じた。</p> <p>昔なら同居していれば祖父母が一緒にいて、困ったときに教えてくれる子育ての先輩がいた。また、地域コミュニティが強かったので、困った家庭があれば、近所の人が見てくれるという人間関係もあった。</p> <p>でも最近はそういうこともなくなり、どう相談したらいいのか困っている保護者がたくさんいると思う。今日、提示されたたくさんの方の方法があつて、積極的に使える人はいいが、どうしても自分から言えない、苦手な親がある。そういうときに、昔のように近所にお節介でもいいので、大丈夫？と聞ける人がいて、地域の情報を集めて困っている方に積極的に関わってもらえるような地域であれば救われる保護者が増えるのだろうと思う。</p> <p>いろんな道具を使うのもいいが、人と人がつながるようなそんな子育て支援をお願いしたい。</p>
会長	<p>まさに温故知新の子育て支援をどうしていくかということ。新しいものを全てブラッシュアップしていくことが大事なわけではなく、昔ながらの大事なものは何かという根本的な部分を残しながら新しいものに取り組んでいただきたい。</p>
委員	<p>同世代ではないが、教育現場にいて、いろんな家族があると感じる。民生委員が赤ちゃん訪問をされるが、本当に半数ぐらいの人が放っておけない、継続して支援しないといけない人だとよく聞く。</p> <p>核家族での子育てというのは、どうしても母親が抱え込んでしまい、育児ストレスに悩み、社会的孤立に追い込まれてしまうという現実があるので、そういう人たちが出ないようなまちづくりをしないといけない。</p> <p>孤立するのは高齢者だけではなく、若い人たちの社会的孤立が非常に大きな課題になっているので、経済的には恵まれているけれども、何か心寂しく自分が孤立している、そこで自殺に追い込まれてしまうという悪い状況もあるが、先ほど言われたように、「つながり」、やっぱり人のぬくもりほどいいものはないと思う。</p> <p>いろいろ相談したら、こうだよ、と教えてもらい、人と人とがつながって、大丈夫だよ、と肩をさすってもらったり抱きしめてもらったりという文化を取り戻さないといけない。困ったら相談したらいいのだが、日本人は相談することが恥ずかしいとか、相談することで迷惑をかけるとか、甘えていくこと、世話になることが迷惑をかけるという意識が若い世代には強く、相談しない。そして、いつの間にか自分が孤立してしまう。</p> <p>先ほど協力隊の松原さんが大変ユニークな取組みを紹介されたが、私もあ</p>

あいう取組みが大好きだ。とにかく楽しく生きるということが1番大事で、楽しかったら幸せだ。そして今子育てに奮闘しているお母さんたちが、この豊岡市に生まれてよかった、子育てできてよかったというまちづくりができたらと常に思う。

いろんな施策が紙面で終わることなく、みんながこの市をどうしていこうという思いで、みんなが喜んでもらえるような、そんな施策が一つ一つ実践できたら。

会長 キャッチフレーズが決まった感じ。楽しく生きるまちづくり。みんなが生き生きとした姿でというのが、これから5カ年計画の中で立てた目標、根本的な部分ではないか。子育てをしている人たちが困ったときに誰でも手が出せるような、先進的な部分を取組みながら、子育て施策を考えていただけたら。

委員 この資料8に関して具体的なお話をさせていただく。広報についてすごくいいと思い拝見した。

私も、2人の子育てを経験し、5月には初孫が生まれた。私たちの時代の子育てと今の時代はやっぱり違うので、どこまで口出ししていいのか分からず、でもどうしよう、みたいなことを日々思っ暮らしている。

「最近の子育て事情って？」という「出張版★子育てなんでも相談」について、これは分かりやすくてすごくいい、ほかの市にないユニークさではないか。

こうして私たちが委員として関わったこども計画の文言が具体的に深まっていくと思うとやっぱりうれしい。

「市公式LINEのシナリオ型チャットボットの導入」について、学生と話していると、私たちの世代と連絡ツールが全く違い、メールでなくLINE、新聞は読まずにネットニュース。私は完全なアナログ世代だが、学生や若いお母さんはデジタル世代で、二次元コードやチャットボットとかを提示しないと、情報にアクセスできない世代になっていると思うので、こういったデジタル化の導入はすごくいい。

また、職員の仕事の軽減にもつながると思うので、より進めていけばいいのではないかな。

今、子育て支援の研究をしていて、以前は明石市の事例を出して、子どもが集まれる居場所を増やすべきでないかという発言したことがあったが、それがこういう形でTSCの努力により実現しているのはすばらしいこと。

私が研究するソーシャルキャピタルとは、すごく地縁が強い地域のつながりをいう。一方、松原氏のように市外からのその土地に関係のない人がつくるつながりのことを、橋渡しのつながるので「橋渡し型ソーシャルキャピタル」という。研究によれば、その両方があったほうが子育て支援には有効だとされる。内閣府の調査では、地域のつながり、ソーシャルキャピタルが豊かな地域は、生涯離婚率が低く、合計特殊出生率が高いというデータがあ

る。

だから、地縁も他所から来た人が作るつながりも両方を強くした市は合計特殊出生率も高くなる。豊岡は両方あるからすごい。

(T S C松原氏 退席)

会長 本本当にそういった具体的な関わりで豊岡市が光を帯びていくと思うので、ぜひいろんな取組みをどんどんやっていくことがすごく大事。夏休みに妻の実家に帰った際、娘が知らないおじさんに親しく声をかけられたことが幸せだった、と感想文に書いていて、そんな子育ての仕方、支援の仕方もあると思った。

新しいものだけに取り組むのではなく、古きよき時代のものを取り入れながら融合させていくことがいいのでは。

委員 但東町は田舎中の田舎で、今年生まれた0歳児が1人。まちづくり協議会の委員や小学校PTA副会長をしていて、但東町子育て応援団という会で子どもたちに関わる立場にある。

少人数だからこそできるよりよい教育・保育がある、という意見を聞いて、但東町は児童数が少なく学校統合に向かっているが、統合は確かに子どもたちにとってはいいことだが、今いる但東の子どもたちがどういった教育を求めているのか。大人が身近に住んでいる地域なので、地域ぐるみの保育・教育、地域の人がいいつでも入っていけるようなスタイルができれば、子どもたちに新しいことを教えていけるし、今までの歴史なども祖父母から引き継いで行けるような保育・教育ができるのでは。

まちづくり協議会では、こどもがいなくなって統合していくのが寂しいということで、空き家の活用や移住促進の話が出ている。その中で、4年生の学年が今6人なので、この学年に向けてインスタなどいろいろな方法を使ってこどもを引き寄せてこれないか、というアイデアも出している。

そういう地域の取組みも、豊岡市の端のほうまで行き届いたコミュニティのつくり方ができれば、もっともっとこの豊岡に住んでいる子どもたちが幸せになれるようなまちづくりができるのでは。

会長 そのつながりをつくる一つのきっかけが先ほどのアプリなのではないか。これを活用することによって、豊岡市が住み心地いいということがわかれば移住される方も増えるかもしれないと考えて検討していくことが大事。

委員 皆さんの意見が全部、納得できるものだった。資料の内容を自分は知らなかったのですごくためになった。今後は何か発言ができるようにしたい。

会長 知らなかったということがすごく大事なポイント。これまで一生懸命いろんなことをしているにかかわらず、それが届いてなかったと捉えれば、情報発信のあり方っていうのは、より考えていかなければいけないという課題に直結するというご意見。

委員 地域おこし協力隊の方がいたり、広報の刷新もされり、すごくいろんなことを考えられているのだと改めて感じた。細かいことではあるが、オムツの

<p>会長</p>	<p>臭わない袋を配られている方や、悩み相談を聞かれている方がいることを、改めて知ったので、協力できることがあればと思う。</p> <p>個人的な意見として事務局からT S Cに伝えてほしい。</p> <p>保護者とか子どもにとって便利になる情報を整理するときに、ポイントとすることがある。1点目は、安心安全が担保されていること、2点目が、利便性が担保されていること、3点目は、地域のつながりが担保されていること。</p> <p>例えば、利用者の声から広がるこどもの居場所だけでなく、避難所とか防災拠点といった正しい情報や、不審者情報も、キャッチしてすぐに分かっかつ正確な情報というのが提供できればすごく良いのでは。幼稚園と保育所のこどもたちだけでなく、高校生が帰るルートを考える上で防犯灯はどこにあるのか、街灯がちゃんとついていいるかもアプリの中で分かったらいいのでは。</p> <p>子育てに役立つ地面的な情報という点から考えると、公園の場所だけでなくスロープの有無、キッズスペースって何歳児向けかなど、より具体的な情報があると、さらに利用しやすいのでは。</p> <p>3点目のつながり、コミュニケーションを促す情報という点から考えると、かなりいろんな情報が盛り込まれていると想像できるが、検索機能はまだまだ改善の余地がありそうな気がしている。「0歳児 遊び場所 水」とキーワードを入れたとき、適切な情報がちゃんと出てくるフィルター機能が付いてるかどうかというのも、一つの課題になる。</p> <p>グーグルと連携したルート案内が必要なのではないか。その地域に住んでいる人にはその場所まで道のりは何となく分かるが、外部から地域に来てもらうときにそのアプリを活用するとしたら、どう行けばいいのかというルートがわからない。</p>
<p>8 その他 (1) 次回の 会議日程 事務局 会長</p>	<p>次回の会議については改めて連絡させていただく。 これを持って本日の会議を終了させていただく。</p>
<p>9 閉会</p>	<p>副会長あいさつ</p>